

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

畜産課長 原正三

電話番号

0852-22-5132

事務事業の名称	乳用牛生産振興事業	
目的	(1) 対象	酪農家
	(2) 意図	酪農家の経営安定
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳用牛の改良に継続的に取り組み、乳用牛1頭当たりの生乳生産量を増加させ、収益性を高めるための対策を実施する。 ・生産された生乳の安定流通を支援し、酪農の生産振興を図る。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	生乳生産量	目標値	64,200.0	65,400.0	66,600.0	67,800.0	69,000.0	t
	式・定義	当該年次における生乳生産量	取組目標値						
			実績値	64,994.0	67,102.0	65,851.0			
			達成率	101.3	102.7	98.9	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	1,777	2,086
うち一般財源(千円)	1,777	2,086

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・農家戸数の減少は進んでいるが、乳用牛の飼養頭数は横ばいで推移。全体乳量は前年度を下回った。(生乳生産量 H28 67,102t → H29 65,851t)
- ・牛群検定加入頭数は H28:1,744 → H29:1,761頭(県全体産牛頭数7,380頭)
- ・牛群検定加入戸数は H28:46戸 → H29:44戸(県全体飼養戸数:108戸)
- ・乳用初妊牛の価格が急騰し、酪農経営を大きく圧迫している。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・平成29年度事業により1法人が新規設立(930頭)
- ・飼養頭数が309頭増加(H28 10,037頭 → H29 10,348頭)

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・牛群検定への参加率が伸び悩んでいる。
- ・更新用の雌牛が不足し、更新が計画どおり進んでいない。また、自家育成を行う頭数が少ないため、県外からの導入に頼らざるを得ない。
- ・労働負担を軽減するための酪農ヘルパー制度を設けているが、ヘルパー要員が不足している。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・検定に手間がかかることや、検定成績を用いた飼養管理の改善が普及せず、牛群検定加入率が低い。
- ・和牛の交配が進み、乳用種の種付け率が20%以下であることや、労働力不足、施設の不足により、自家育成による後継牛確保が進まない。
- ・乳用初妊牛の市場価格が急騰しており、後継牛の確保に支障をきたしている。
- ・検定員・ヘルパーの人員が不足しているため、酪農家がヘルパー制度等を十分に活用できていない。

③原因を解消するための「課題」

- ・牛群検定への加入を促すため、牛群検定成績を用いた飼養管理技術の指導や衛生対策の実施。
- ・酪農家における乳用種の種付け率向上や、自家育成による後継牛確保。
- ・「牛群検定協議会・酪農ヘルパー利用組合」等の充実化。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・牛群検定への加入を促進し、県全体で優良後継牛の確保や、牛群成績の向上を推進する。
- ・島根県牛群検定協議会の活動を支援し、牛群検定成績を用いた飼養管理技術の指導や衛生対策を引き続き実施する。
- ・性選別精液や性別別受精卵の活用を促すなど、優良後継牛の確保対策を行う必要がある。
- ・受胎率向上に関する研修や酪農家を対象とした繁殖検診・指導を引き続き実施し、繁殖成績向上による生産性向上を図る。
- ・「酪農ヘルパー利用組合」の県域でのヘルパー出役を支援することで、酪農家の労働力軽減を目指す。
- ・本県、乳用牛の改良の促進、後継者育成を図るため、「第15回全日本ホルスタイン共進会」の出品対策支援を実施する。